

オオエンコウガニ 南東大西洋

Deep-sea red crab *Chaceon erythrae*



(図版：SEAFO Stock Status Report より)

管理・関係機関

南東大西洋漁業機関 (SEAFO)

生物学的特性

- 最大体長 (甲長) : 雄 13.2 cm・雌 11.5 cm、最大体重: 雄 780 g・雌 420 g
- 寿命: 15 歳前後
- 性成熟年齢: 不明
- 産卵期・産卵場: 産卵期 (不明)・産卵場 (Valdivia Bank)
- 索餌期・索餌場: 索餌期 (不明)・索餌場 (Valdivia Bank)
- 食性: 死骸も餌とする雑食性
- 捕食者: オレンジラフィー等大型魚類

利用・用途

本種は、主に缶詰、ほぐし身として利用される。

漁業の特徴

SEAFO における本種の漁場は B1 海域内 Valdivia Bank の限られた場所で、主に日本とナミビアがかにかご船で操業を行ってきている。

漁獲の動向

SEAFO 設立 (2003 年) 以降 2022 年までの 20 年間のうち操業があったのは、2016 年、2018 年及び 2022 年を除く 17 年間であった。操業のあった年の漁獲量は、5~808 トン間で変動し平均 185 トンであった。2007 年に最大漁獲量 808 トンを記録した。漁獲量は、前半 (2003~2010 年) は平均 206 トンで日本が最も多く、後半 (2011~2022 年) は平均 131 トンでナミビアが最も多かった。

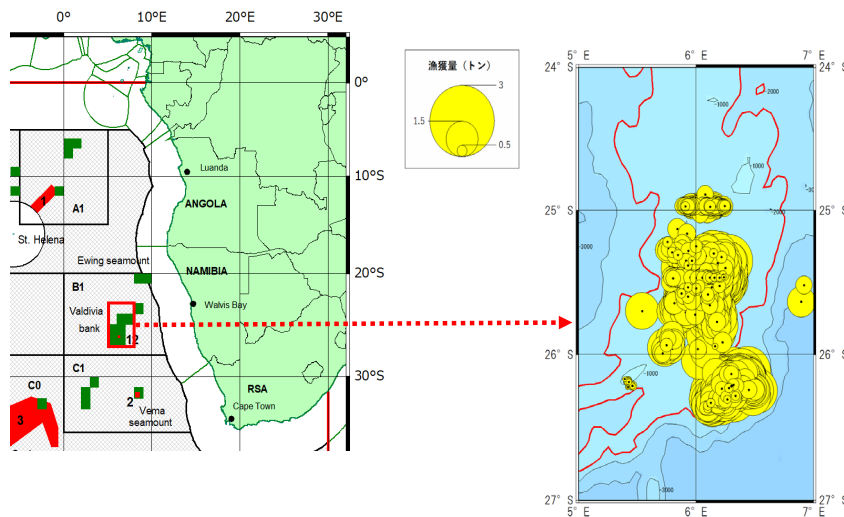
資源状態

資源豊度指数 (標準化した単位努力量当たりの漁獲量 (CPUE)) によると、2013 年まで豊度指数は年々増加したが、それ以降は 2015 年を除き減少している。2005 年から 2007 年に平均 501 トンの高漁獲があり、その後も総漁獲可能量 (TAC) に近い漁獲量 (200 トン) が 6 年間続いた。おそらく高漁獲の影響で加入量が急減し、そのコホート (同世代群) が寿命 15 年のオオエンコウガニ資源量に悪化をもたらし、2017~2018 年に豊度指数が急減したものと考えらえる。2021 年の CPUE はピーク時 (2013 年) の 10% まで落ち込んでおり、科学委員会で資源状態の悪化が懸念されている。資源水準は資源評価が実施されていないため不明、資源動向は最近の CPUE が減少傾向にあるため減少と、それぞれ判断した。

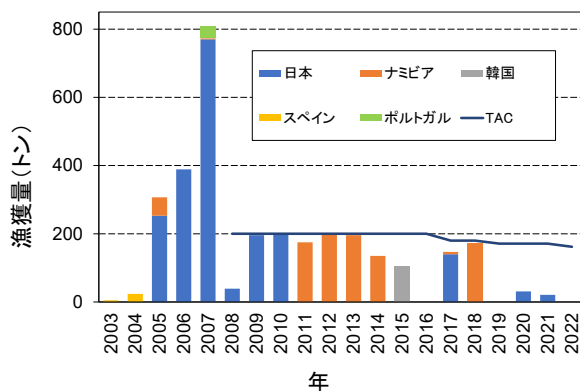
管理方策

管理措置決議 CM30-15 では、底魚漁業、禁漁海域、脆弱な海洋生態系 (VME) を含む深海生態保全、科学オブザーバー乗船義務、開発漁業等の規則が定められている。TAC 設定規則では、科学委員会で合意された資源評価結果が無い場合漁獲管理ルール (HCR) で TAC (2 年毎) を決定することが合意されている。HCR は、最近 5 年間の CPUE の平均的傾きに基づくものである。合意された資源評価が現在までないため HCR で TAC が決定されている。最新の TAC (2022~2023 年) は、B1 海域で 162 トン (他の海域では HCR を使用せず以前と同じ 200 トン)。その他の管理方策には、CM04-06 (サメ類保全)、CM14-09 (海亀類保全) 等がある。

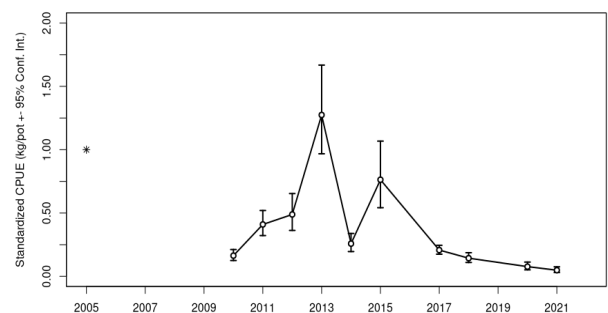
オオエンコウガニ（南東大西洋 SEAFO 条約海域）の資源の現況（要約表）	
資源水準	不明
資源動向	減少
総漁獲量 (最近 5 年間)	0~808 トン 最近 (2021) 年: 21 トン 平均: 45 トン (2018 年及び 2020 年~2021 年) (2019 年操業は無く 2022 年は混獲 1 トンのみ)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	21~140 トン 最近 (2021) 年 21 トン 平均: 64 トン (2020~2021 年) (2018~2019 年及び 2022 年操業無し)
管理目標	HCR に基づく TAC (2022~2023 年) (B1 海域: 162 トン、その他の海域 200 トン)
資源評価の方法	体長コーホート解析及び Y/R (Yield per Recruit) 解析
資源の状態	不明
管理措置	<ul style="list-style-type: none"> ・底魚漁業、禁漁海域、VME を含む深海生態保全、開発漁業等の規則 ・B1 海域における 2022~2023 年 TAC162 トン、その他の海域 200 トン ・サメ類保全措置 ・海亀類保全措置
最新の資源評価年	2014 年 (結果の合意なし)
次回の資源評価年	未定



オオエンコウガニ主漁場 (SEAFO B1 海域 Valdivia Bank) における漁獲量分布図



SEAFO 海域におけるオオエンコウガニの国別漁獲量・TAC の推移 (2003~2022 年)
(注) 2022 年南アフリカのトロール漁船による混獲 (1 トン未満) があった。



SEAFO B1 海域 Valdivia Bank におけるオオエンコウガニ資源量豊度指数 (標準化 CPUE) の推移 (2005~2021 年)
(注) 2005 年の指数は * で表示。2006 年~2009 年の指数は、CPUE データが無いため不明。